

9月9日は救急の日

救急医療を正しく理解しましょう

去年の出動3554件!

9月9日は「救急の日」。この日は、救急医療・救急業務に対する正しい理解と認識を深めるため、昭和57年に制定された。この機会に、万一の際に役立つ救急の知識を身につけてみてはいかがでしょうか。

●知っておきたい応急処置

私たちは、いつ突然のけがや病気に襲われるか予測できません。それほど心配する状態ではないと思われても、症状によってはそれが重症であったり、放



心肺蘇生の講習会(去年の講習会から)

一刻も早い適切な対応を

置しておくとも悪化して生命に危険を及ぼすこともあります。特に、何らかの原因で意識がなくなつた人がいた場合は、居合わせた人の一刻も早い適切な応急処置が求められます。医師や救急車が到着するまでの間にどのような対応ができたかが、その後の経過、ひいては命を救えるかどうかを左右します。

①意識の観察: 肩をたたきながら「もしもし」「大丈夫ですか」といって呼びかけます。
②助けを求める: 大きな声で「だれか救急車を呼んでください」と助けを求めます。
③口の中を調べる: 口の中に何が詰まっていないか調べ、

④気道確保: 傷病者の横に座り、頭に近い方の手を額に当て、他方の手の指で下あごを持ち上げます。
⑤呼吸の観察: 気道確保のまま胸やおなかの動きを見て、傷病者の口、鼻に自分のほおを近づけ、5秒程度呼吸音や胸・おなかの動きを確認します。
⑥人工呼吸: 頭に近い方の手の親指と人さし指で鼻をつまみ、空気が漏れないようにし、胸が膨らむ程度に2回吹き込みます。
⑦脈の観察: のどぼとけの位置で人さし指と中指をそろえて指先を手前にずらし、硬い部分から軟らかい部分に移る間にある場所を軽く押さえて、5秒程度脈があるか調べます。

消火器点検 悪質業者にご用心

最近、悪質な業者が市内を回り、建物に設置されている消火器について、不適切な点検を行ったり、消火器を設置するだけで点検をしなかったり、不当に高い手数料を請求するなどのトラブルが増加しています。狙われやすい建物は、支店や店舗の多い事業所、学校・幼稚園・保育園、一般家庭などです。

悪質な業者の手口は、次の①から⑦で紹介するように、とても巧妙です。被害にあわないよう、日ごろから注意するとともに、少しでも不審に感じたときは、消防本部予防課(☎231・0355)までご連絡ください。

① 出入りの点検業者を装う: 「〇日、消火器の点検に来ました」「消火器の点検に来ました」などと出入り業者を巧妙に装い、関係者を信頼させます。

② 消火器を素早く集めて調べ: 「もしあれば人さし指にガーゼやハンカチを巻き、かき出します。」

③ 契約書の署名をさせる: 作成した「消防設備点検等契約書」に、署名または押印を求め、その後契約書には、出入りの点検業者と関係ないことや、点検等の理由づけがいつの間にか記入

④ 高額な代金を請求: 消火器を持ち帰り、時期をみて請求書を出して支払いを求め、製造日から3年以内は機能点検は必要ないとされているのに、点検して代金を請求します。

⑤ 脅迫し支払いを強要: 「ここが泣き寝入りして、会社または押印した個人が支払うような被害が多い。」

⑥ 消火器の返還を拒否: 「(高額の)代金を支払わないと、支払うまでこちらで保管する」と消火器を返還しなかったり、消火器の保管料を請求する」と主張します。

⑦ 点検が不誠実: 実際には薬剤の詰め替えをしていないのに、したように見せかけて「詰め替え料」を請求します。キャップ・ボンベなどの締めつけが不良であるなど、点検がずさんで危険です。

不審に感じたら、すぐ通報



⑧ 心肺蘇生法: 人さし指と中指でろっ骨の縁に沿って左右のろっ骨が交わる位置で止まり、他方の手を頭の方へ置いた位置が圧迫部位です。両手を重ねてひじを伸ばし、垂直に15回圧迫します。その後2回の人工呼吸を行い、圧迫と人工呼吸を繰り返します。

本市の去年の救急出動件数は3554件で、年々増加する傾向にあります。しかし、119番通報の中には、通報者が動揺したために、住所・氏名・電話番号・状況などが確認しにくいことがあります。

通報時には落ち着いて状況を伝え、消防署の指示に従ってください。救急車のサイレンの音が近づいて来たら、手を振って現場まで誘導してください。

▼問い合わせ 消防本部(☎231・0355) 消防総務課(内239) 予防課(内238)

海老名むかしはなし



「この嵐では舟が転覆しかねない。それに、水かさも増しているから危険だ」と一度は断ったが、上人の熱意に押され、舟を操って対岸へ送り届けた。舟上で上人が「南無妙法蓮華経」と題目を唱え、不思議や舟の周囲だけは波が平らかに治まった、という話もある。

弥左衛門には子がなかった。のち、夫婦して身延山久

首切り役人の依智三郎は、名剣「蛇胆丸」を振り上げ、いざ処刑という瞬間、一天俄にかき曇り、激しい風雨の中、江の島の方角から満月のような光り物が飛来し、依智が振り上げた太刀を二つに折ってしまった。一方幕府方からも、「仔細どもあまたありて」と赦免の使いが早馬で来、本間六郎左衛門(佐渡の守護代)の館(のちの妙純寺・現厚木市金田)へ連行されることになった。

途中、警護役人の鈴木貞勝は座間宿の自邸へ上人を招き入れ、夜来の疲れを癒すよう休息を促した。その折、貞勝は上人から円教坊の法号をいただき深く上人に帰依し、のちその名も休息山遠光院円教寺を建て開基となった。

一方、このころ上郷の外記河原に、渡舟を業とする弥左衛門という人が住んでいた。その夜は暴風雨なので、戸締まりを厳重に早寝とした。と、夜中に雨戸を激しくたたきく者がいる。それは日蓮上人の一行で、上人は「川向こうの金田へ行くのだが、舟を出してもらいたい」という。弥左衛門は、

第460話 日蓮上人の歌

郷土の里うた・里ことばなど(四)

四方の川幾度川瀬変わるとも
変わるまいぞや外記の河原は
これは、日蓮上人の歌と郷土に伝わるものである。いつ、どこで、誰に与えられたかは分からないが、「外記河原」という土地は確かにある。それは、上郷地区が下今泉地区の西側を北方に伸び、座間市四ツ谷に接する地域で、その集落をむかしは「外記宿」と呼び、八王子街道は最初ここを通っていた。外記という呼び名は、平安初期の承和十一年(八四四)、相模介(次官)橋永範がこの地に留まって、高座・愛甲の二郡を開拓して救急院を建てたというが、この人の官名である外記(太政官内の記録や公事を司る)を採ったという。

歌のことはさておき上人のことに及ぶが、上人の主唱した「立正安国論」が鎌倉幕府の忌諱に触れ、文永八年(一二七二)九月十二日、これは人心を惑わすものであるとして捕らえられた。そして、白昼馬の背にくくりつけられ、鎌倉大路を引き回しの末、由比ヶ浜・七里ヶ浜を経て、江の島を正面に見る竜ノ口の刑場に到着。子丑の刻(十三日午前二時)、敷皮石の断頭場に打ち据えられた。